

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	020 -	事業名	地域間交流事業	担当部課	くらし文化部たつせがある課
------	-------	-----	---------	------	---------------

基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ リリモでにぎわい交流するまち	会計区分	一般会計
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	予算区分(款 - 項 - 目)	
	第6次総合計画・基本目標	✓ いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪	2-1-9 まちづくり協働費	
	法定受託事務の有無			
	その他(関係計画、要綱等)			
事業開始の背景、経緯等	南木曾町は木曾川の水源地为縁で平成18年に交流宣言書調印を行い、宝塚市は介助犬訓練施設「シンシアの丘」が縁で平成24年に覚書「きずなづくりの誓い」を締結し、交流を開始した。			

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ①市民間及び自治体間の交流を推進する。特に友好提携を結んでいる長野県南木曾町及び兵庫県宝塚市との交流を推進する。 ②自治体間相互訪問 ③本市及び南木曾町施設利用優待制度実施		
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民及び自治体		
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民間及び自治体間でより活発な交流をする。		
	事業を構成する事務事業(B票)	① 地域間交流事業	改善・見直し	④
			⑤	
			⑥	

コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	事業費(A)	千円	決算	予算	53	54	54	59
決算				8	19	23	17	
人件費(B)	千円	決算	2,673	1,375	2,658	1,749		
総コスト(A)+(B)	千円	決算	2,681	1,394	2,681	1,766		

成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A 自治体間相互訪問交流件数	件	目標	実績	5	6	6	7
実績				5	6	7	7	
B		目標						
		実績						
C		目標						
		実績						
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A	両市町と本市との交流の実態を把握するため、行事への参加など、自治体間で職員が相互訪問し交流及び情報交換した件数を指標とする。目標数値の設定方法は対前年度比増加。							
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣の自治体間交流実施市町：日進市(長野県木祖村、三重県志摩市)、尾張旭市(石川県輪島市)、東郷町(長野県王滝村)
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 事業への参加や相互訪問をすることにより、交流の目標件数を達成した。
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 新しく連携した市町や交流している市町はないが、友好提携を結んでいる市町との交流は継続して行っている。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 2市町以外で西尾市など以前交流していた市町についても現状把握や内容の整理を行い、把握に努める必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 交流を継続し、施設相互利用促進だけでなく、市全体で交流が活発になるよう周知していく。2市町以外で以前交流していた市町についても現状把握や内容の整理を行う。
	中長期の目標	(いっごうまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成32年度ごろまでに2市町以外の現状調査をし、全課における自治体間相互交流の実態把握をする。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・行政改革指針に係る「自治体間連携の推進」を踏まえ、引き続き事業に取り組んでください。
------	-------------------------	---

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	地域間交流事業		担当部課	くらし文化部たつせがある課	決算書ページ	—
事務事業名	①	地域間交流事業	予算区分	2-1-9 まちづくり協働費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成18年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ①市民間及び自治体間の交流を推進する。特に友好提携を結んでいる長野県南木曾町及び兵庫県宝塚市との交流を推進する。 ②自治体間相互訪問 ③本市及び南木曾町施設利用優待制度実施
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民間及び自治体間でより活発な交流をする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	53	54	54	59	59
		決算	8	19	23	17	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		普通旅費				10	千円
(2)		道路通行料				7	千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
自治体間相互訪問交流件数	件	見込	5	6	6	7	7
		実績	5	6	7	7	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
・たつせがある課が実施した交流事業(いずれも南木曾町)							
①南木曾町植樹祭及び文化文政風俗絵巻之行列に市長、議長、たつせがある課職員が訪問							
②ながくて市民まつりに南木曾町が出店							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

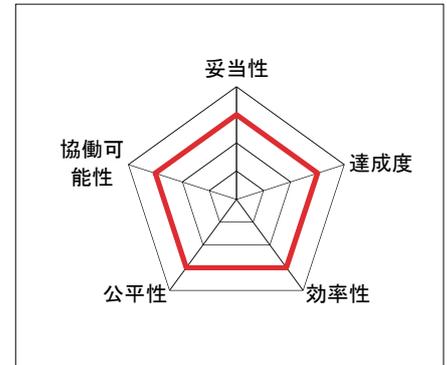
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 自治体間の交流について、南木曾の木材を使用した木のおもちゃなどをプレゼントする出産祝い事業などを行っているほか、市民まつりや各課の事業を通じた市民同士の交流も続いている。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
59千円 59千円 0千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 拡充
・前年度【コメント】
交流の推進につなげるため、相互施設利用優待制度利用者の実態調査をする。そのために、市内施設や南木曾町へ、実態調査への協力依頼をする。また、2市町以外で以前交流していた市町について、現状把握や内容の整理を行う。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
市内施設の施設利用優待制度利用者の実態把握に努めたほか、以前交流していた市町について現状を整理した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	—	—	—	—
実績	—	—	—	—
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
南木曾町と相互市民向けの施設利用優待制度を実施することで相互訪問を通じた市民同士の交流を促した。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
南木曾町との相互施設優待制度について、相互住民に対し、これまで以上の周知が必要である。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
市内施設を調査した結果、相互施設優待制度の利用があまり見られなかった。相互優待制度の内容の改善を図る必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し